

大杉谷～大台ヶ原へ



(シシ淵・奥はニコニコ滝)

期 日 2020 年 10 月 25 日(日)～27 日(火) 参加 石川誠 佳子
日本三大峡谷 黒部川峡谷(富山) 大杉谷峡谷(三重) 清津峡(新潟)

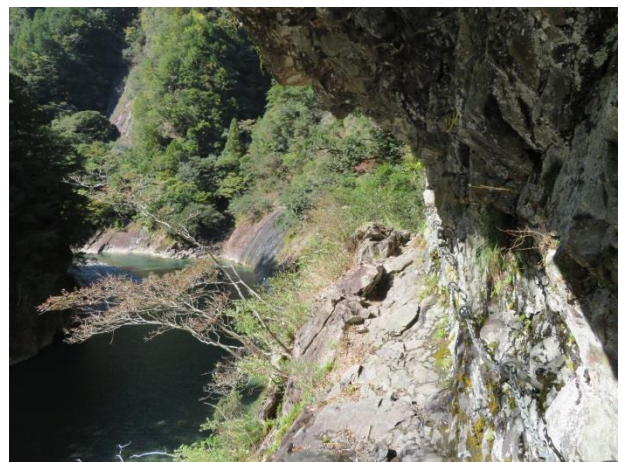
行 程

10/25 日 自宅-名古屋経由-三瀬谷-11:00 大杉谷登山口 11:35-13:35 千尋滝
13:50-15:20 シシヶ淵 15:30-平等嶺-16:45 桃の木小屋(泊)

早朝、新幹線、名古屋でJR特急南紀1号に乗り継ぎ三瀬谷駅へ、バスは運休で、止む無く予約していたタクシーに乗り込む。

車は宮川沿いの道を1時間程で大杉谷登山口に到着。ここには自家用車で登山する車が10台程駐車していた。

ここから身支度を整え出発、大三発電所脇の道で大杉谷へと入って行く。



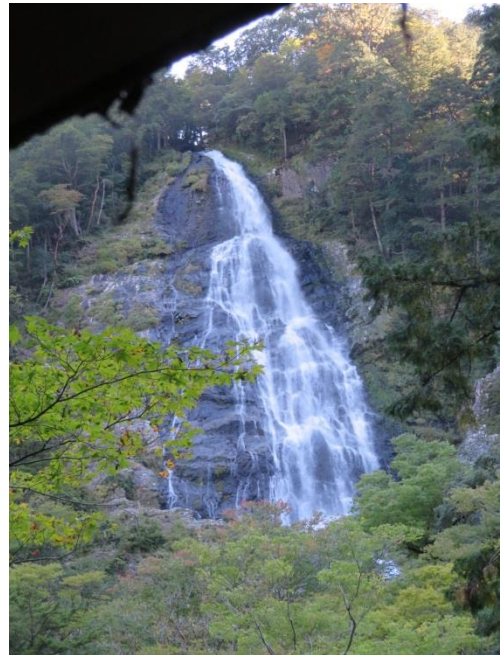
「出だしから岩を削った道を」



此処には、鉄製のゲートがある。雨の時は入山禁止となり閉鎖するとのことで3日前には雨の為、閉鎖していたとのことである。ゲートをくぐった途端に岩壁をくりぬいた1m足らずの道が開削されて、鎖の手すりが繋がっていて先が思いやられる。丁度、黒部溪谷の下の廊下を思い起こさせる。空は晴れて気分爽快、溪谷は滔々と溪谷は滔々と水が流れ淵には真っ青な水が滞留し、透明度が高く底にある石が透き通って見えている。

「谷沿いの道を更に奥へ」

途中大日崙、の岸壁を仰ぎ、左下に深い谷を俯瞰しながら地獄谷吊橋などいくつかの吊橋を渡り、細い岩壁沿いの道を鎖を頼りに慎重に歩を進める。1時間程で千尋滝を見る。まるで山の上から落ちて来ている様にすごく立派な滝で、壮観である。幾つかの吊橋を渡り、大杉谷の中でも景観の良いシシ淵に辿り着く。



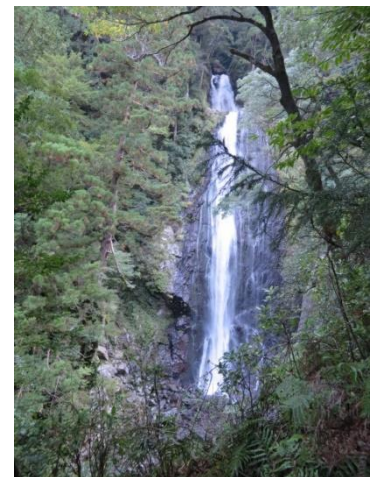
「シシ淵」

「千尋の滝」

奥にはニコニコ滝がこれまた、水しぶきを上げて滔々と流れ落ちている。この光景は一幅の絵を見る様で自然の造形美に感嘆する。吊り橋を左右に亘りながら歩を進めると平等崙の岸壁を右手に見る。思わずルートを見上げてしまう。ここからさらに40分程進むと、対岸に今夜の



宿となる。桃の木山の家が現れる。この小屋は、昭和15年に開業し、当時のこの小屋の写真を見ることが出来た。古くから登山者が利用してきた老舗の山小屋でもある。当時の谷の遡行は現在の立派な吊橋など整備された道ではなく、岩壁を丸太1本などの足場をへつりながら辿り着くという苦労が窺える。



「平等崙の岸壁」

「ニコニコ滝」



10/26 日 小屋 6:50-7:25 七つ釜滝 7:40-崩壊地-10:25 光滝 10:35-隠滝-
12:00 堂倉避難小屋ーシャクナゲ坂
14:20-15:24 日出ヶ岳(1695m)
15:40-16:25 大台ヶ原(心・湯治館)泊

小屋は200人ほど宿泊できる大きな小屋で、この山深い谷の中にこんな大きな小屋があることに驚かされる。この小屋は、大台ヶ原から降りて

くる登山者や滝見物をして戻って行く登山者もかなり見受けられた。

朝は、昼飯用としてチマキ弁当を作って貰い、7時前に出発する。左岸沿いの道を進み、40分ほどで七ツ釜滝に到達する。この滝は三段に分かれて優美な姿を見せている。さらに40分程谷沿いの細い道を進んで行くと、目の前に大崩壊した大きな岩の堆積を見る。この大崩落は、昭和26年に発生し、しばらく入山禁止となっていた。落ちた岩の大きさと言ったら半端なく小さな小屋一件、重さ何百屯



「桃の木山の家」

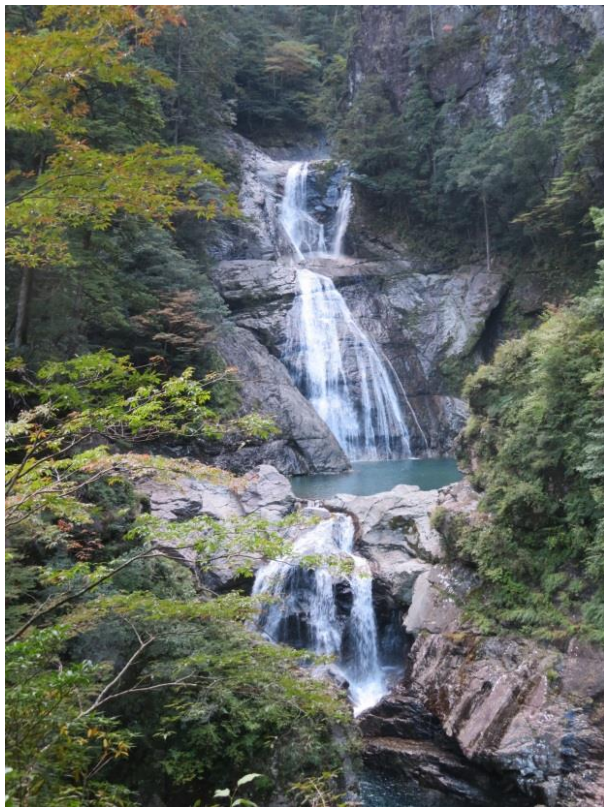
という大きさの岩が見受けられた。崩落した其の凄まじさは如何ばかりであろうか。

さらに進むと光滝、隠れ滝と続き、左岸を経つりながら堂倉吊端を渡り、更に堂倉滝吊端を渡ると目の前に立派な滝壺を構えた堂倉滝が轟音をあげてドウドウと水飛沫を上げて落ちています。まさに目の前に落ちてくる荘厳な滝です。

この滝を最後に尾根に取りつきます。

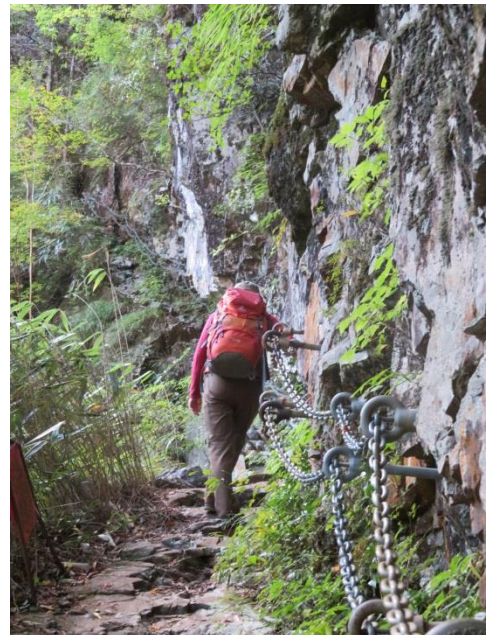


「小屋の前にて」



日本滝百選に選ばれた「七つ釜滝」

ジグザグな道を辿り急な道を1.5時間程進むと、大台林道の広い道路に突き上げ、さらに少し進むと尾根上の開けた林の中に堂倉避難小屋が建っています。ここは鳥たちの天国といった処でしょうか、いろいろな鳥の鳴き声を聞くことが出来ました。この先さらに尾根上の林の中、落ち葉を踏み鳴らしながら、所々にある赤いテープの標識を頼りに高度を上げてシャクナゲ坂、シャクナゲ平を越えて大台ヶ原の最高峰日出ヶ岳(1695m)に到着しました。途中のシャクナゲ平などは、6月などシーズン中は、石楠花の花に覆われ登山者も多く押し寄せるとのことでした。



「滝を目指して更に上へ」



『大崩落の前のヘツリ』



「リンドウのつぼみ」



「キノコの仲間ナメコ」



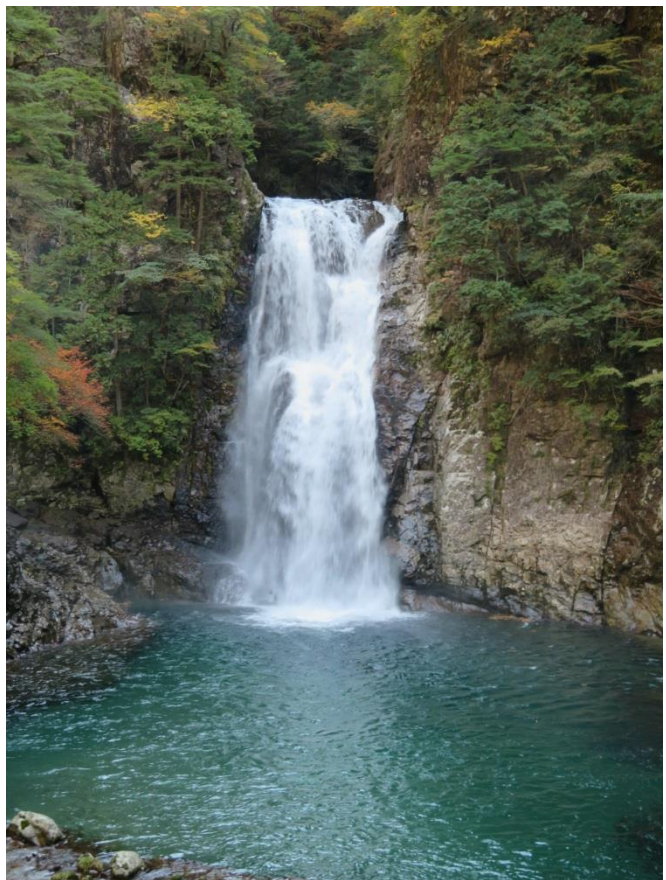
「大崩落の岩場を前に」



「落ちた大きな岩」

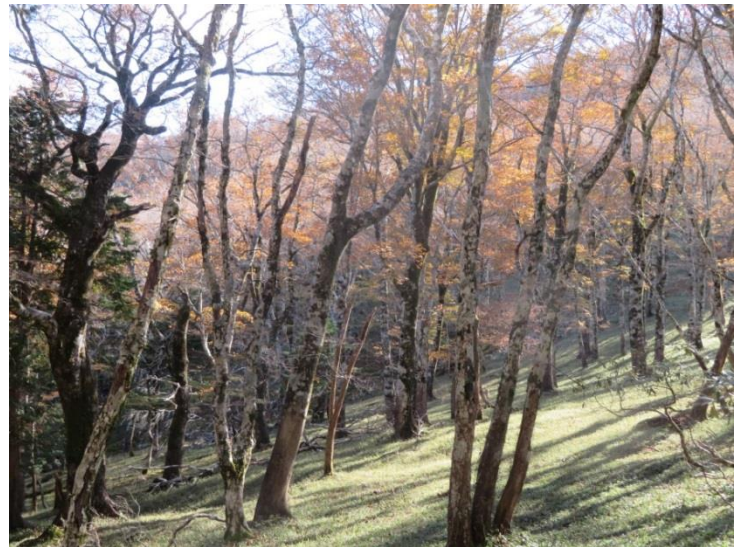


「隠れ滝の前の河原」



「堂倉滝」

日出ヶ岳の展望台からは北に台高山脈の山々、東に熊の灘、西には大嶺山脈の山々など360度の山々を展望する出来、まさに絶景であった。



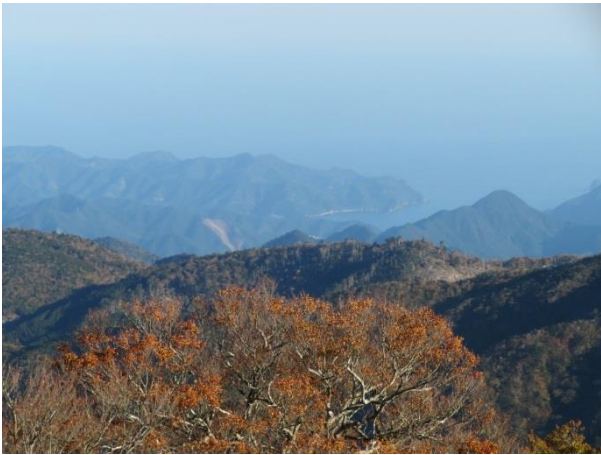
「頂上真近・石楠花平を進む」



「日出ヶ岳頂上にて」



「保護された大台ヶ原の森」



「頂上からの熊野灘」

10/27 日 宿舎 8:00-東大台・9:20 大蛇嶺往復
9:40-午後下山 13:00-14:15 JR大和上市
-京都経由で帰宅



「紅葉も進んで

宿には20人ほどの観光客、登山者が宿泊していた。注意書きとして、昨日早朝月熊が徘徊していたので早朝、夕方には公園内を散歩しない様にとの忠告を受けていた。

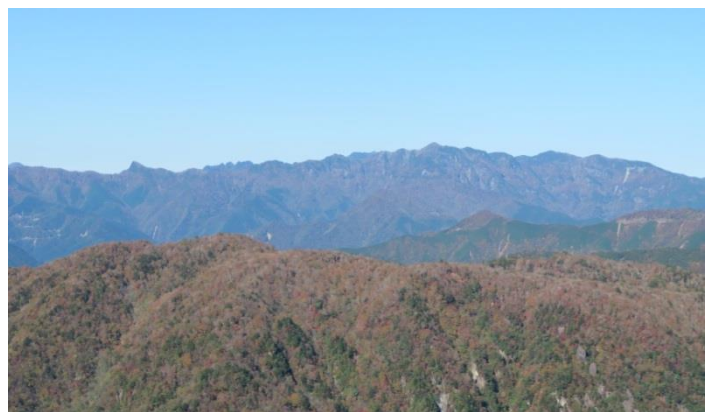
この地では野生の動物たちも多く生息していて、カモシカ、日本鹿、月ノ輪熊なども生息しているとのことだった。ちなみに陽向ボッコをしていたヘビが慌てて藪の中に逃げ込んでいくのを、2,3度出くわしたので、湿気の多い土地柄、マムシもいるとの事で注意しながら歩いていた。



「開けた牛石ヶ原の草原」

又、森の中にはナメコなどキノコや菌類や雨の多い土地柄、青い苔など密生していたのには大台ヶ原の特性が現れていた。

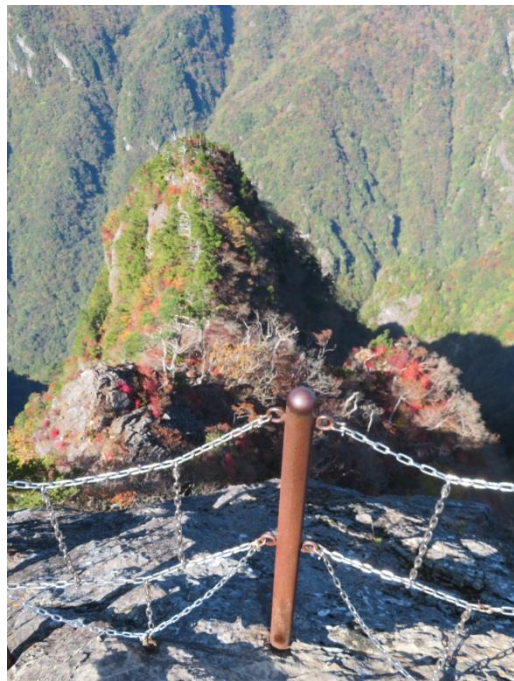
紅葉もブナやモミジなど綺麗に染まっていたが、戸隠山の時の様に全山紅葉とはいかなかったが、この1週間で全山紅葉も進む事だろう。朝食を摂って大台ヶ原の散策にむかう。



「大峰山脈を見る」

鷲辻から神武天皇像が祀られている牛石が原を經由して大蛇岨への道を辿る。この道は平坦で、最初は林の仲を尾鷲辻まで、そして牛石ヶ原は一面笹に覆われた見通しの良い平原を通り、シオカラ谷への道を分けて大蛇岨へと突き当たる。この場所は、目の前に竜口尾根を挟んで深い谷が入り込む展望の良い場所で、丁度竜の頭が突き出ている様な場所で、真下は絶壁となって切り落

山脈を望み、周りは咲くに覆われているが、足元は蛇紋岩であろう、多くの観光客でツルツルに光っていて



「大蛇岨を見る」



滑りやすくスリル満点の場所でもあった。

しばしここ

からの絶景を楽しむ 「竜口尾根の大岩

元来た道を引き返しビジターセンターなどを見物するが、定期バスは、一日1本 15:30 だけで、このバスに乗って帰ると今夜真夜中になってしまうため、

此处でもまた、またタクシーを呼び寄せ、大台ヶ原ドライブウエーを一番近い駅である大和上市へ「



吉野川の畔を進み、この川は下って紀ノ川となるとのことだった。

この電車は、近鉄吉野線で、桜で有名な吉野山の麓、そして京都への乗り換え地

点が橿原神宮前、途中には長谷寺、法隆寺、飛鳥などと大和朝廷発祥の地の中核に行く列車に揺られたときは、奈良、京都への修学旅行の地を再訪した思いがした。

機会を見つけて又のんびりと旅でもしたいものだ。

そして京都からは一気に新幹線を使い品川～横須賀へと戻った。家に着いたのが午後8時過ぎ、秋の季節天気にも恵まれ良い山旅が出来た。